記　入　日　2012 年　1 月 15 日

１．概　要

実践団体名	宮城県大河原町立 金ヶ瀬 中学校		
連絡先	０２２４－５３－１３６９（金ヶ瀬中学校）		
プランタイトル	学校と地域が協働する防災対策活動プラン		
プランの対象者	中学生、教職員、保護者・ＰＴＡ、地域住民	**対象とする災害種別**	地震、水害

【プランの目的・ここがポイント！】

本校のある地域は高齢化と核家族化が進み、住民間の絆が薄れていくことが懸念されている。この中で地域の防災力を高めていくことが課題であり、目的である。具体的には次の３つになる。

１．災害時の自助・共助の方策
２．防災意識と災害対策・対応機能の向上
３．防災・減災行動の習得と的確な判断能力の育成

本校の中学生が中心になって活動する防災教育実践を、地域住民を巻き込む活動に発展させ、学校・生徒と住民間の協働体制にしていくことを、目的とし、持続可能な地域社会づくりを目指すプランである。

【プランの概要】

・中学生が中心となって活動し、地域と協働する地域防災訓練を実施する。
・地域住民による学校支援組織「金未来隊」の設立し、地域とともに防災教育と地域防災訓練を実践していく。また、「金未来隊」の方々の協力を得て食料備蓄の農作業として、食材の栽培や生産、加工を体験する。
・社会福祉協議会や行政区長・大学など多彩な団体・機関等を巻き込む教育実践を拡充し発展させていく。
・プランの重要性を積極的に外部に発信・広報する活動を繰り広げていく。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

地域住民との「かかわり」・「つながり」が継続・拡充し、持続可能な地域社会づくりとその活性化を推進でき、地域防災力の向上が図れる。

２．プランの年間活動記録（2011 年）

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	地域住民による学校支援組織（金未来隊）を設立する。	金未来隊を選出するための人選作業。依頼文書の発送。組織づくり。	１７日　学校支援組織設立総会 金未来隊の任命 組織について
5 月	地域防災訓練の炊き出し・備蓄米のための田植えを行う。	学校田提供者、支援組織担当者との打合せ	１６日　田植え 田植え作業
6 月	避難所の機能拡充のためのかまどベンチを作成する。	技術の時間を使って移動式かまどベンチの設計と材料を購入した。	移動式かまどベンチの制作開始 ７月にかけて完成したものを実演
7 月	有事の際の備蓄用食糧（梅干し）生産と加工食品の生産を行う。	金未来隊との打合せ 材料の購入　梅の収穫	初旬　梅の収穫体験　選別・塩漬け ・天日干し・シソ漬け・漬け込み 作業体験。
	防災意識を高めるための講演会を開催する。	東日本大震災のことを踏まえた内容と最適な講師依頼、地域・保護者への講演会参加の呼びかけを行った。	１５日　防災教育講演会講演 演題「みやぎで起きたこと、これから何が起きるのか」 講師　地震･噴火予知研究観測センター長　教授　海野　徳仁　氏
9 月	地域防災訓練の炊き出し・備蓄米のための稲刈りを行う。	学校田提供者、支援組織担当者との打合せ はせがけの準備	２７日　稲刈り 稲刈り はせがけ作業
10 月	地域防災訓練の炊き出し・備蓄米のための脱穀作業を行う。	学校田提供者、支援組織担当者との打合せ	２１日　脱穀 脱穀作業
11 月	地域と共に防災教育と地域防災訓練を計画・実践していく。防災教育講演会を実施し、地域住民にも防災意識の高揚を図る。	行政区長との打合せ 社会福祉協議会より車いす、炊き出し用大鍋を役場より借用 避難所機能拡充のための準備 講演会講師の方との打合せ	１３日　地域防災訓練の実施 ・校内避難訓練 ・避難所運営班 炊き出し班　受付班 情報収集・避難誘導班 保健・救護班に分かれて 避難所体験の運営を行う 防災教育講演会 地域住民も講演会に参加

３．実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：①】

タイトル	農業体験
実施月日（曜日）	平成２３年５月～１０月
実施場所	本校借用の田
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校教諭、学校支援組織、田の提供者 氏　　名：小関康司（教諭）、長山清一（学校支援組織）、 我妻　功（本校元 PTA 会長） 所属・役職等：金ヶ瀬中学校教諭、学校支援組織金未来隊、 元 PTA 会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	所用時間　田植え　２コマ×５０分 稲刈り　２コマ×５０分 脱穀　２コマ×５０分
プログラムの　カテゴリ、形式※4	４　総合的な学習の時間
活動目的※5	10　その他（地域防災訓練時の避難所体験の備蓄米として使用）
達成目標	地域防災訓練で参加した地域住民の人数（約２００名）分の炊飯をまかなうとともに非常用の食糧を確保する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	５月：田植え（学校支援組織金未来隊の方との共同作業） ９月：稲刈り（学校支援組織金未来隊の方との共同作業） １０月：脱穀
準備、使用したもの **・人材** **・道具、材料等**	人　材：本校学校支援組織、１学年生徒（３２名） 道　具：田植え線引きの道具、鎌、紐、竹、杭
参加人数	田植え：　教諭３名、１年生３２名 稲刈り：　教諭４名、１年生３２名 脱　穀：　教諭３名、１年生３２名
経費の総額･内訳概要	苗代：２万円　　借用田：約７万円
成果と課題	【成果】　地域の主産業である農業について、体験に基づく学習を通じて、地域の農業についての理解を深め、農業の視点から地域や地球の未来を考えるとともに、収穫した米を炊飯して地域防災訓練で提供したり、非常用食糧として確保したりすることができた。 【課題】　実際に本校が避難所となった際、収穫した米で地域住民に十分な食糧を継続的に提供できるかどうかが課題である。

成果物	収穫した米を地域防災訓練に炊飯し、地域住民に提供。 非常用食糧の確保。

【実践プログラム番号：②】

タイトル	梅干し作り（有事の際の備蓄用食糧の生産加工体験学習）
実施月日（曜日）	平成２３年７月初旬の数日
実施場所	学区内梅林 金ヶ瀬中学校調理室・中庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校教諭・学校支援組織 氏　　名：松崎恵子（教諭）・中村守孝　中村栄子（支援組織） 所属・役職等：金ヶ瀬中学校教諭・学校支援組織（金未来隊）
所要時間または「コマ数×単位時間」	制作時間　５コマ×５０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	４ 総合的な学習の時間　５ 教科学習（家庭科）　13 体験学習
活動目的※5	10　その他（有事の際の備蓄用食糧の生産・加工、地域防災訓練でも使用する）
達成目標	生徒が地域の学校支援組織の協力と指導を受けて，梅を収穫し，赤シソの栽培を行い，昔ながらのやり方での梅干しづくりを実施する。できあがった梅干しを備蓄食料として保存，地域防災訓練の炊き出しにも使用する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	５月：地域の特産である梅干しについての事前学習。中庭での赤じその栽培。 ７月：学校支援組織金未来隊の支援のもと，学区内の梅林で梅の収穫体験。学校に戻っての選別・塩漬け・天日干し・シソ漬け・漬け込み作業体験。 11 月：地域防災訓練，炊き出しの際にできあがった梅干しを使用。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	人材：学校支援組織金未来隊（２名） 道具：天日干し用ざる・漬け込み用樽・重石・くわ 梅（約５０kg）・塩・シソの苗・焼酎・酢
参加人数	教諭３名、２年生３５名
経費の総額･内訳概要	約２万円（ざる・樽・重石の補充・梅・シソの苗・塩など）
成果と課題	【成果】学校支援組織「金未来隊」の協力と指導のもと，地域の特産である梅の収穫，梅干しへの加工体験学習により，生徒達の地域理解が進んだことと，作った梅干しを有事の際の備蓄食料とすることができて，地域防災訓練の炊き出しでは，非常用米炊き袋で炊いたごはんのおかずとして２００人に十分な量を提供することができた。 【課題】昔ながらの梅干し作りは手間と時間がかかり，天候にも左右されやすいので，計画通りの日時で作業が進まないことも多い。時間の確保と臨機応変の対応が難しいことが課題である。また，材料等を購入する費用の捻出方法も課題である。
成果物	災害時など有事の際の備蓄食料としての約５０kg生徒が作った梅干し「金中梅‘１１」（生徒ネーミング）

【実践プログラム番号：③】

タイトル	避難所機能拡充のための「移動式かまどベンチ」制作
実施月日（曜日）	平成２３年６月～７月にかけて制作　　１１月１３日（日）実演
実施場所	大河原町立金ヶ瀬中学校　中庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校教諭 氏　　名：雫石明宏（教諭） 所属・役職等：金ヶ瀬中学校教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	制作時間　８コマ×５０分
プログラムの　カテゴリ、形式※4	５　教科学習（選択技術科）
活動目的※5	２　防災に役立つ資料・材料作り　８　防災意識を高める
達成目標	地域防災訓練で参加した地域住民の人数（約２００名）分の炊飯をまかなう
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	４月：かまど設計 ５月：材料購入 ６月：制作開始 ７月：完成、実演練習
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	人材：３学年生徒（３１名） 道具：のこぎり、さしがね、インパクトドライバー 材料：（１台分）２×４ＳＰＦ材（４０枚）、木工ビス（２００本） レンガ（１００個）、キャスター（６個）、 セメント（５ｋｇ）
参加人数	教諭１名、３年生３１名
経費の総額・内訳概要	１台分、約２万円　３つ制作
成果と課題	【成果】生徒自身が「かまどベンチ」を作ることによって、防災への意識が高まった。生徒の防災訓練に対する準備や、地域の方々への対応が積極的になった。地域の方々も使用できる防災備品の広報。 【課題】かまど担当生徒（約８名）だけが使用方法を知っているので、全校生徒が使用できるように、実演講習会を行う。 普段から、ベンチとして使用し、防災に対する意識を持ち続けること。地域の方々にも実演講習会に参加してもらう。 水の確保。ガスボンベの備蓄。
成果物	地域防災訓練に使用し、２００人以上の炊飯可能。 地域の方々に高評価を得た。 普段からベンチとして使用し、防災の意識を持続できる。

【実践プログラム番号：④】

タイトル	防災教育講演会「みやぎで起きたこと、これから何が起きるのか」
実施月日（曜日）	平成２３年７月１５日（金）
実施場所	大河原町立金ヶ瀬中学校　体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：外部講師 氏　　名：**海野　徳仁** 所属・役職等：**東北大学大学院理学研究科** **地震・噴火予知研究観測センター長**
所要時間または「コマ数×単位時間」	１３：３０～１５：００
プログラムのカテゴリ、形式※4	３　講演会・シンポジウム　　４　総合的な学習の時間
活動目的※5	６　防災に関する知識を深める　　８　防災意識を高める
達成目標	大震災のメカニズムを知り，地震災害の状況を知り，震災に関する知識を深める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	１　講師の選定・・・講師の情報収集、日程の調整、派遣依頼 ２　講演会の開催 「みやぎで起きたこと、これから何が起きるのか」 ３　生徒の感想・反省、アンケートの記入
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	講演会に使用するコンピュータ、プロジェクタ、スクリーン マイク、ワイヤレスマイク、
参加人数	本校全校生徒９８人　　地域住民・保護者４３人　教職員１６人
経費の総額･内訳概要	講師謝礼　３万円
成果と課題	【成果】今回の東日本大震災がどうやって起きたのか、大規模震災はどんなメカニズムで起きるのかを知ることができた。また、今後も地震発生のことについても理解し、災害に対する心構えが芽生えた。 【課題】学んだことが実際の行動にどのように役立っていくのか、自分たちで防災行動を取らせていくためにはどのようなアプローチが必要かを考える必要がある。
成果物	生徒アンケート結果、感想集

【実践プログラム番号：⑤】

タイトル	地域防災訓練
実施月日（曜日）	平成２３年１１月１３日（日）
実施場所	大河原町立金ヶ瀬中学校　　体育館　　各行政区指定避難所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師　行政区長　学校支援組織　担当者 氏　　名：越智繁雄　村上幹生　富川春男　村上丞 所属・役職等：内閣府政策統括官（防災担当）付参事官 行政区長（金ヶ瀬６区）　金未来隊隊長　本校教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	生徒事前・事後指導　　４コマ×５０分 地域防災訓練　９：００～１６：００（防災教育講演会を含む）
プログラムのカテゴリ、形式※4	３　講演会・シンポジウム　　４　総合的な学習の時間 16　避難・防災訓練　　17　展示・実演等の見学体験学習
活動目的※5	４　災害を想定した訓練　　６　防災に関する知識を深める ８　防災意識を高める
達成目標	中学生と行政区長、学校支援組織が協力して、地域防災訓練を実施することで、中学生の役割と自分たちに何ができるのかを追求し、その成果と課題を明らかにする。また、この訓練を継続させ、学校と地域住民との協働体制にしていくことで地域の防災力の向上を図る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	１　地域防災訓練までの準備①　食料の備蓄（農業体験活動） ・田植え　稲刈り　脱穀の農業体験を通して、避難所体験に使用する炊き出し食糧の確保 ・梅の収穫、梅干し加工の体験を通して、避難所体験に使用する炊き出し食糧の確保 ２　地域防災訓練までの準備②　避難所の機能拡充 ・移動式かまどベンチの制作、普段は校内のベンチとして使用し、災害時の有事にはかまどやテーブルとして使用可能なものを制作 ３　地域防災訓練までの準備③　行政区長との打合せ ・各行政区長と当日の打合せと地域住民の参加依頼についての打合せ ４　地域防災訓練までの準備④　地域住民への参加依頼 ・地域住民に地域防災訓練実施の案内状配布、参加人数の把握 ５　地域防災訓練までの準備⑤　生徒への事前指導 ・地震防災ビデオ「大地震に備える」の視聴により、防災と減災、中学生にできることを指導 ・避難所運営、保健救護、炊き出し、受付、災害状況・情報収集の５つの班に分かれ、防災訓練での自分たちに何ができるかを計画し実践できるような話し合いを持つ。

6　地域防災訓練までの準備⑥　防災教育講演会の講師選定
・専門的な視野と視点から，わかりやすく知識を深められ、防災教育に的確な指導や助言ができる方を選定し、派遣依頼をする。

7　地域防災訓練までの準備⑦　関係各機関、団体等への協力依頼
・講師依頼　東北大学大学院理学研究科　地震・噴火予知研究センター
　　防災教育チャレンジプラン実行委員会
・避難所運営　学校支援組織「金未来隊」
　　金ヶ瀬中学校同窓会
　　金ヶ瀬公民館
　　金ヶ瀬中学校ＰＴＡ
・車いす借用　大河原町社会福祉協議会
・防災訓練参加　行政区長会
・炊き出し用大鍋　大河原町役場
・講演会参加　大河原町ＰＴＡ連合会

8　生徒の活動内容

班　名	金未来隊	生徒人数等	活　動　内　容
害状況・情報収集	地域文化伝承部 ６人	生徒９人+保護者３人 生徒６人+公民館１人 生徒６人+保護者３人	・講演会チラシの配布と自宅訪問による情報収集活動 ・公民館に一時避難した参加者を誘導・引率 ・指定一時避難所からの安全な誘導・引率
避難所・受付	農業体験活動部 ６人	女　８人	・避難所受付をし、地区毎のボードを作成。避難者数を把握する。 ・参加受付状況を本部へ報告 ・自宅や親族等からの電話等の呼出・問合せの対応 ・避難所マップ作成・掲示
避難所・運営		男　２７人	・いす、畳やマット等を体育館に配置し、避難所を設営 ・参加者をトイレ等に案内 ・車いす用スロープの設置 ・防災グッズの展示・説明
保健・救護	学校行事支援部 １２人	保健委員の生徒 12 人 ３人×４班	・体調不良、けが等に応急処置を行う。 ・避難所を巡回して健康チェック・健康相談に応じる。 ・応急手当の仕方の掲示説明
炊き出し調理	食品加工商品開発部　４人	男女３０人 5 人×6 班	・食材の検討と準備、購入 ・ご飯（米炊き袋）、豚汁、梅干しの準備 ・避難所での参加者への配膳・配付 ・食材の紹介、米作り、梅干し作りの紹介

9　地域防災訓練の日程

9:00　地域の支援委員・役員、係担当の保護者が集合・打合せ
9:40　地震発生・・・・全校生徒対象の校庭への避難訓練
10:00　地域防災訓練の開始
（生徒と金未来隊は各班毎の活動、地域住民は一時避難）
①本部・避難所の開設と運営
②一時避難所からの避難誘導
③炊き出し開始
④応急救護の準備開始
⑤災害の情報収集（各戸にチラシ配布）など
11:00　避難所の開設と運営
①受付を開始し、避難者名簿を作成、問い合わせ対応
②救護係による健康チェック，健康相談
12:00　炊き出し試食
〈地域住民との懇談、防災教育講演会の準備〉
13:30　防災教育講演会
15:50　閉会行事
16:00　閉会
16:30　（片付け完了）

10　防災教育講演会次第

① 開会のあいさつ
② 講演者紹介
③ 講演：演題「東日本大震災で起きたこと」
講師：内閣府政策統括官（防災担当）付参事官　越智繁雄　氏
④ 講演閉会のあいさつ
《 休憩１５分　講演会のみ参加者はここで散会　生徒発表準備 》
⑤ 本日の訓練実施概要の説明
⑥ 各係の代表生徒による実施報告
⑦ 総括講評：　越智先生
⑧ 閉会のあいさつ　金未来隊副隊長

準備、使用したもの
・人材
・道具、材料等

・人材　地域住民、講演会講師、学校支援組織（金未来隊）
行政区長、公民館長、ＰＴＡ保護者
・道具　防災ビデオ　プロジェクタ、コンピュータ、
放送機材一式、地域防災訓練配布チラシ、防災グッズ
非常持出袋、車いす、大なべ、かまど　など
・材料　炊き出し用の食材（米、梅干し、豚汁用食材、その他）

参加人数	参加総人数　２８７人 内訳　　本校生徒９８人、学校支援組織金未来隊２８人 教職員１８人、地域住民（保護者含む）１２２人 町ＰＴＡ連合会員２１人
経費の総額・内訳概要	１２８，３７４円　かまどベンチ材料代　コンパネ代、 印刷・インク代、コンロ代、ガス代など
成果と課題	【成果】学校と学校支援組織金未来隊、行政区長会が協力して地域防災訓練を実施することで、防災意識を高めることができたこと。また、生徒のアンケート結果からわかったことで，この防災訓練を通して、地域の人たちとのつながりがもてたことや地域防災訓練に関われたことで自分たちが地域のために役に立つことができる実感がもてたことや中学生でもできることがあると言うことにがわかってきたことが成果としてあげられる。行政区長からはまた、来年も継続してほしいとの要望があった。 【課題】中学生が中心となって活動する訓練であるが、地域の方々と一体になって計画していく体制にし、地域の参加者をもっと増やしていく工夫を考える必要がある。また、指定避難所が中学校以外の所もあるのでそのあたりの計画も今後の検討課題となる。
成果物	・中学校が行政区長会と協力して主催する地域防災訓練説明会 ・中学校が行政区長会と協力して主催する地域防災訓練実施要項

４．苦労した点・工夫した点

プランの立案と調整で苦労した点工夫した点	苦労した点 ・東日本大震災があった後でのプラン実行で、年度初めの計画立案の遅れが余儀なくされた ・独自な計画を考えつつも，前年度の反省を生かしつつ、プランの汎用性を検証するため、万人向けのプログラムにするためにはどのようにしたらよいか話し合いがもたれた。 ・防災教育講演会の内容をどのようにするかと講師を誰にするかという点で検討に検討を重ねた。 工夫した点 ・総合的な学習の時間を活用しているが，それ以外にも選択教科などを活用して時間を確保した。また、学年毎に活動内容を細分化した。 ・避難所の機能拡充策として炊き出し用のかまどを借りるのではなく避難所である学校に常備しておこうと計画した。 ・学校支援組織金未来隊を地域防災訓練や防災教育にも活用しようと考えた。
準備活動で苦労した点工夫した点	苦労した点 ・地域住民による学校支援組織金未来隊を設立するにあたり、その人選作業と依頼をするためにあいさつ等に出向くのに時間がかかった。 ・学校支援組織金未来隊の方々と打合せを持つためには，全員の方々との連絡調整を取り、合わせるのが大変だった。 ・地域の方々に地域防災訓練の意義や目的を徹底するまでに時間がかかった。あるいは全部の家庭まで行き渡っていない点が挙げられる。 工夫した点 ・多くの人に防災意識を高めてもらうために，町ＰＴＡ連合会にも協力を要請した。 ・各区の家庭へ案内を出す際に、行政区長会の意見も取り入れ、効果的で早く確実に配布回収できる方法を確立した。
実践に当たって苦労した点工夫した点	苦労した点 ・地域防災訓練を実施するにあたって、多くの方々、団体、関係諸機関の協力をいただいた。２年目でもあるので多少は前年度のノウハウを生かせたが、反省等を生かし盛りだくさんな内容になった部分もあった。また、教員の転勤等もあって、その部署の引き継ぎが不十分であったり、継続させるための苦労があった。 工夫した点 ・中学生でも非常時には「自分にも役に立てることがある」、「やればできる」という自己肯定感を持たせ、将来的にこの地域で貢献できる素地を身に付けさせるように工夫した。 ・異年齢の参加者、協力者がそれぞれの持ち味を生かし、中学生と協働作業をする中で，生徒に社会性や技術、技能が身につくようにした。

５．他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	防災教育講演会講師
	金ヶ瀬中学校同窓会	地域防災訓練参加
保護者・ＰＴＡの組織	金ヶ瀬中学校ＰＴＡ	地域防災訓練時の各班毎活動の協力
	大河原町ＰＴＡ連合会	防災教育講演会の参加
地域組織	本校学校支援組織「金未来隊」	農業体験活動（米作り、梅干しづくり）地域防災訓練時の各班毎活動の協力
	行政区長会 金ヶ瀬公民館	地域防災訓練の連携 地域住民への参加協力の依頼
国・地方公共団体・公共施設	大河原町社会福祉協議会	地域防災訓練に車いす体験のため借用協力
	大河原町役場	地域防災訓練に炊き出し用の大なべを借用
	防災教育チャレンジプラン実行委員会	地域防災訓練の防災教育講演会の講師を派遣
企業・産業関連の組合等	なし	なし
ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等	なし	なし
職業、職能団体・学術組織、学会等	なし	なし

６．成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として得たこと	・地域防災訓練を中学校が主導して行うことにより、金ヶ瀬地区全体が同じ日に一斉に避難訓練を行うことができた。公民館長や行政区長の言葉を引用すれば、中学校のおかげで各行政区の地域防災訓練も兼ねて実施できるようになり、人も集まるようになった。つまり、行政区も中学校も互いに協力し合い、互いにメリットがあったと言うことになる。 ・東日本大震災もあり、地域住民の関心が高く、防災訓練に参加したことにより防災意識の高まりが感じられた。生徒アンケートでも地域防災訓練は必要であると答えた生徒は 90%を超えている。 ・生徒は「役に立てることがある」、「やればできる」という自己肯定感が高まり、自分でも地域に貢献できるという存在であると実感できた。 ・このプランは、過疎化が進み、核家族化が進み、地域の絆が希薄になってきつつある金ヶ瀬地区のようなところでは、中学生が防災に大きく貢献できることがわかった。また、地域の防災力を高めるためには学校が中心となった地域防災訓練が有効であると言うことも成果としてあげられる。
全体の反省・感想・課題	・金ヶ瀬地区の実態や・実情に即した防災教育と防災訓練が実施できた。 ・今年度は地域防災訓練が中心となった防災教育を展開してきたが、次年度は日常から全般的な防災教育に力を入れることと、別な視点での体験型防災教育にも力を注ぎたいと考える。 ・中学校主導だけではなく，行政区や地域の意見、要望も取り入れて、さらに連携しながら地域防災訓練を実施したいと考える。
今後の継続予定	前年度の反省を生かし臨んだ２年目の地域防災訓練であったが、反省を生かし切れてない部分や、新たに浮かび上がってきた課題、地域の方々からの要望などがあり、次年度は次の点に考慮して実施したいと考える。 ・避難所体験をする際の炊き出し調理の食材確保。食料の備蓄が指定避難所には必要。そのあたりを行政と検討していく。 ・参加者の増加。金ヶ瀬中学区全戸に案内を配布しているが，参加者は 10%程度にとどまっている。地域への啓発と行政区長会との連携でさらに多くの方に防災意識を持ってもらう計画を考える。 ・保護者や地域住民に参加していただくにあたり、訓練内容や協力内容も再検討し調整する必要もある。 ・行政区長会や学校支援組織との打合せや説明会を計画的に実施し、早めに実施内容について周知徹底する。

７．自由記述欄　※6

実践活動の様子

４月１８日　吉田中へ復旧支援

５月１６日　農業体験　田植え

５月２０日　梅干しづくり

６月　　かまどベンチ作成

７月１５日　防災教育講演会

９月２７日　農業体験　稲刈り

（自由記述：１／３）

地域防災訓練　避難所・受付　班

地域防災訓練　避難所・受付　班

地域防災訓練　保健・救護　班

地域防災訓練　保健・救護　班

地域防災訓練　避難所運営　班

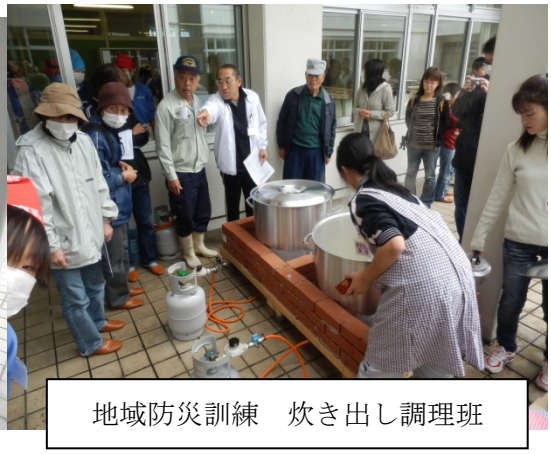
１０月２１日　農業体験　脱穀

（自由記述：２／３）

地域防災訓練　炊き出し調理班

地域防災訓練　かまどベンチで

地域防災訓練　炊き出し試食



地域防災訓練　炊き出し調理班

地域防災訓練　健康チェック

地域防災訓練　防災教育講演会

（自由記述：３／３）